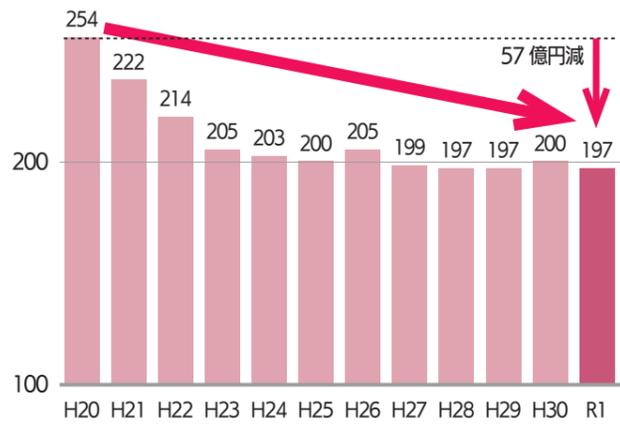


「まいづる家」のローン

建設地方債残高の推移



まいづる家のみんなが使う家の増改築（公共施設の建設、道路の整備等）などの費用を補うため、ローンを有効活用しています。

令和元年度は、災害復旧事業の減少などで前年度よりも借入額（起債発行額）が減りました。

近年は、借入額を減らす取り組みによって残高は減少傾向ですが、災害や施設の老朽化対策で残高が増える可能性があります。

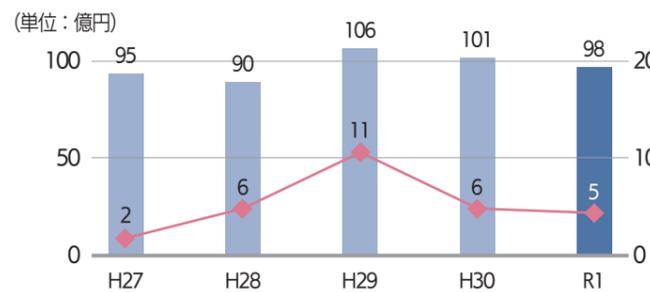
※「建設地方債」のほか、収入の不足を補う「臨時財政対策債」の借り入れも行っていますが、返済資金は、国の手当てがあることから、実質的な市の負担はありません。

将来世代の負担を減らすため、地方債の借入額を返済額より減らす取り組みを進めています。これによって、総合計画に掲げる令和元年度末残高の目標値 201 億円以内を達成しました。

まいづる家では、災害などの予期せぬ出費や将来の投資に備え、計画的に基金を活用しています。

「まいづる家」の貯金

基金残高と取り崩しの推移



災害のような突然の出費に備えるためにも、家計のやりくりを工夫しながら基金の取り崩しを抑えつつ、効果的に基金を活用します。

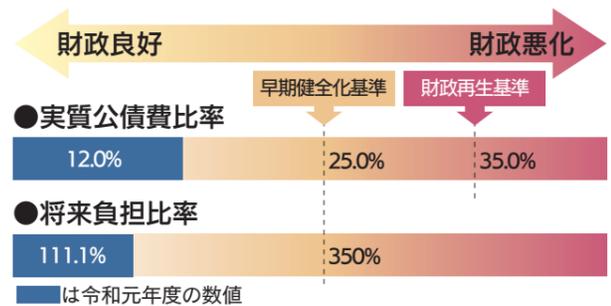
「まいづる家」の家計の将来見通し～財政の健全性を示す2つの指標～

健全化判断比率

家計に例えると「実質公債費比率」は、年収に占めるその年のローン返済の割合です。

また「将来負担比率」は、ローンなどの将来返済が必要なお金が年収に対してどの程度あるかを表したものです。

どちらの数値も、危険水準（早期健全化基準）を大きく下回っています。これからもこの数値を維持するためには、やりくりの工夫が必要です。



「舞鶴市の財政運営」

令和元年度は、市民税などを含む市税全体としては増加しましたが、償却資産などの固定資産税は減少しています。今後、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響などで市税収入の増加が見込めない中においても、積極的な補助制度の活用や民間との連携などによりさまざまな財源確保に取り組みます。

また、将来世代の負担軽減のため、引き続き地方債の借入額を返済額より減らすとともに、頻発する災害に備えるために基金繰入額の抑制に努め、健全な財政運営に取り組みます。



舞鶴市の財政状況

「まいづる家」の家計簿～令和元年度決算の状況～

舞鶴市の決算や財政状況を、わかりやすく家計簿に例えながら説明していきます。

★令和元年度一般会計の歳入決算額約 344 億円と歳出決算額約 340 億円を、収入 344,000 円と支出 340,000 円に例えています。

★1 億円を「1 千円」に、昨年度の決算額との比較は「先月との比較」としています。

収入 (市の財政にあてはめると)	金額	(先月との比較)
給与(市税)	118,000円	(±0円)
家族のアルバイト収入 (国・府支出金、地方交付税など)	182,000円	(2,000円↑)
ローンによる借入れ (臨時財政対策債を除く建設地方債)	17,000円	(7,000円↓)
家賃収入 (分担金、財産収入、使用料など)	20,000円	(2,000円↓)
先月からの繰り越し (繰越金)	2,000円	(1,000円↓)
貯金の取り崩し(繰入金)	5,000円	(1,000円↓)
計(一般会計歳入合計)	344,000円	(9,000円↓)

支出 (市の財政にあてはめると)	金額	(先月との比較)
医療費(扶助費)	77,000円	(±0円)
子どもの教育費や仕送りなど (補助費等、出資金貸付金、繰出金)	76,000円	(±0円)
食費 (人件費)	68,000円	(±0円)
家の増改築や修繕費 (建設事業費、維持補修費)	42,000円	(10,000円↓)
光熱水費や日用品の購入 (物件費)	41,000円	(±0円)
ローンの返済(公債費)	35,000円	(±0円)
貯金(積立金)	1,000円	(1,000円↓)
計(一般会計歳出合計)	340,000円	(11,000円↓)

今月のまいづる家は、家賃収入や先月からの繰り越しが少なくなる中、家族がアルバイトをして家計を支えたので、ローンによる借入れや貯金の取り崩しを減らすことができました。

食費、光熱水費や日用品購入費などの固定経費を抑えつつ、家の増改築や修繕などの支出を先月よりも抑えることができました。

今後はまいづる家の給与が減少傾向にある中、家の修繕費や医療費などの固定経費が増える傾向にあります。これからも、災害などの不測の事態に備えつつ「まいづる家」のみんなが安心して暮らすために、お金の使い方を工夫し、節約する必要があります。



特別会計・企業会計 決算状況

特別会計とは、特定の事業を行う場合に、使用料などの収益をもってその事業の経費を賄うため、一般会計とは区別して収入・支出を処理するための会計です。

また、企業会計とは、民間企業と同様の経理基準で運営されている会計です。

【特別会計】

会計名	収入	支出	基金残高
国民健康保険	83億1,444万円	82億3,707万円	6億2,201万円
介護保険	80億6,115万円	80億2,076万円	6億2,998万円
後期高齢者医療	12億4,548万円	12億4,049万円	—
貯木	41万円	41万円	8,607万円
駐車場	5,879万円	3,900万円	7,820万円

【企業会計】

会計名	収益	費用	当年度純利益
水道事業	18億9,190万円	17億3,062万円	1億6,128万円
下水道事業	34億982万円	33億2,969万円	8,013万円
病院事業	10億327万円	9億7,652万円	2,675万円